

図画工作科 小学校第1学年カリキュラム

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
4	すきなもののいっぱい すきなものをたくさんかいて楽しむ。	A (2) ア	2			○小学校生活を始めたばかりの子どもたちの心を開放し、描画に取り組む安心感を与えるようにする。		◆初めての学習で緊張する児童もいる。教科書の絵を見せて安心させる。
	しぜんとなかよし 草や砂など自然の材料で楽しく活動する。	A (1) ア	2			○活動場所に行く前に教科書を見ながら、どんな材料が見つかりそうか、どんなことができそうか確かめ活動のめやすを持つようにする。	小学校第2学年 『土』ってきもちがいい	■校庭や砂場で触覚や視覚を十分に働かせながら友達と一緒に活動させる。
5	ひかりのくにのなかまたち 光を通す色の美しさをいかしてつくる。	A (2) ウ	3			○セロハンやビニールなどの素材の透過性に気付き試行錯誤しながら、透過性を生かした活動をすることにより、光を通す材料の特徴や操作性を楽しむことができる。	小学校第2学年 「あきをならべていいかんじ」	■セロハン袋に色セロハンを試しに少し入れ光にかざしたり、きれいに見えたり楽しく見える工夫を考えたりする。
	みてみていっぱいあったよ すきなものをいろいろおもいつきながら、作り方を工夫する。	A (2) イ	3			○土粘土の手で触った冷たい感じや手にくっつく感じなどに抵抗のありそうな子供には、少量の粘土でひもや団子状のものからはじめさせる。安心感をもって活動できるようにする。	小学校第2学年 「ひみつのグアナコ」	■複数個づくり、そこからお話が広がるように、作ったものを友達と集めて楽しく遊ぶ。
6	チョッキンパツでかざろう 紙を折ったり、切ったりして飾りを作る。	A (2) ウ	4			○はさみの元まで紙を入れて長くつなげて切ったり、丸く切ったりするときは紙の方を動かして切るなど、はさみの基本的な技能をしっかり身に付けさせたい。	小学校第2学年 「あきをならべていいかんじ」	■「どんなふうにおろうかな。」 「どんなふうに切ろうかな。」と話しながら教師が大きめの正方形の紙を切り、実演してみせる。
	ふわふわポンポン 空気を入れた袋を使って、工夫して活動する。	A (1) イ	2	空気の入っていない袋に空気を入れるときの感触を体全体で十分に味わい手ごたえの変化を感じるようにする。大きさや形、色の違う袋も加え、発想や活動のイメージを広げていく必要がある。		○袋というやわらかい平面的な材料に空気を入れたり何か詰めたりして、自分の好きな立体的な形を作っていく活動を楽しむことができるようにする。	小学校第3学年 「だんだんだんボール」	■空気の入っていない袋に空気を入れる時の感触を体全体で十分に味わい、袋の手ごたえの変化を感じるようにする。その後、大きさや色の違う袋も加え、イメージを広げていけるようにする。
7	うきうきボックス 身の回りの材料を使って箱を飾る。	A (2) ウ	3			○箱に身近にある材料を、のりやテープなどいろいろな方法で接着・接合していく学習について、9年間を通して経験を積んでいく必要がある。	小学校第2学年 「マグネットマスコット」 「ぶかぶかゆらゆら」	■材料集めを呼びかける段階で、教科書を見ながらどんな箱を作りたいか話し合うとよい。
	はるはるおはながみのえ おはな紙の貼り方を工夫する。	A (2) イ	2	試したり見つけたりしながら構想し、様々な貼り方が見つけられるようにする。また、のりのつけ方でも様々なさわ心地を楽しむことに気付き発想を広げていけるようにする。		○紙と洗濯のりの快い感触を味わいながら、抽象的な形を思いのままに楽しませる。	小学校第1学年 「くしゃくしゃがみからうまれたよ」	■ふわっとはったり、きゅうっと固めたり、折って貼り強い色を作ったり、ふんわりと重ねたり様々な貼り方がみつけられるようにする。

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
8	クルクルぐるーり 筆の動きと絵具をぬることを楽しむ	A (2) ア	3			○筆で線をかいたり、面塗りをしたりという水彩絵の具の基本的な技能を経験する。まずは体全体を使って自由に描くことの楽しさを味わわせ、心を開放しているいろいろな色やうずまきなどの筆使いから生まれる表現を楽しませる。	小学校第2学年 「えのぐじま」	■描くことの楽しさ快さを経験させ自信をもたせていく。教師が大きさや太さ、形や色の違いを描いて見せ筆圧やスピードによる変化により様々な葉状の線が描けることに気づけるようにする。
9	ならべてひろげて 身の回りの材料で、並べ方を工夫して活動する。	A (1) イ	3			○幼児期に石など小さなものを並べて遊んだ経験から発展した造形遊びである。大きな色紙では色の美しさと組み合わせ色々な材料では、形の面白さや大きさなどを意識し、友達とのかかわりにも目を向けていけるようにする。	小学校第1学年 「うつしてあそぼう」 第2学年 「いろいろなみず」	■広い空間で色画用紙を色ごとに並べ子どもが選択し活用できるようにする。みんなで材料集めを始め、たくさんの材料から気に入った並べ方、何かの形、並べる場所など工夫できるようにする。
	どうぶつむらのピクニック 紙の箱の形から思いついた動物を工夫して作る。	A (2) イ	5			○形や材質が異なる紙の接着/接合方法を、経験を通して習熟させる。	小学校4学年 「願いの種から」	■空き箱を組み合わせて動物を作り、みんなでピクニックに行くことを提案する。その際、空き箱の形や色、大きさ、ふたの開き方などの特徴を生かす方法を例示していく。
10	できたらいいこんなこと したことやいたことをもとに、思いついたことを工夫して描く。	A (2) イ	4	思い出を想起しながら、構想したり、自分の経験をきっかけに空想を広げたりしながら、絵に表すことができるようにする必要がある。		○水彩、カラーペン、クレヨン、パスなど自分の思いに合わせて描画材や表現技法を選ぶことで描画表現の自己選択、自己決定ができるようになる基礎となるようにする。	小学校第4学年 「まほうの力をもつ時計」	■好きな物や楽しかったことを思い浮かべて、その形や色をもとに、できたらいいことの思いをふくらませ、思いのままに表わす。
	おさんぽトコトコ 簡単なしくみで、動くおもちゃを作る	A (2) ウ	4			○簡単な仕組みを使って仕組みから想像するおもちゃを工夫する。工夫は同じでも出来上がるものが違うことを楽しみ、仕組みを理解してよく転がるものを作り、楽しく遊ぶことが必要である。	小学校第2学年 「コロコロ大きくせん！」	■簡単な作品を教師が作っておき、仕組みを発見し、そこから想像するおもちゃを作れるようにする。
	つたえよう、わたしのすきなかたち いろ 描いたものを飾ったり、交換したりして楽しむ。	A (2) ア	4			○2つの活動内容から教師選択で取り組む。一つ目は耐水紙にカラーペンやアクリル絵の具などを使って自分のすきなものを描き、行事等で飾れる旗を作ること。二つめは、小さな紙にシールやカラーペンを使ってマークや絵、自分の紹介などを描き名刺を作って友だちと交換し合うことである。心を開き、友達と関わり合う活動につなげる。	小学校第4学年 「ハッピーカード」	■ [自分の旗] 遠くから見ても自分の旗と分かるような色や描くものの大きさを考えるように伝える。 [自分のカード] 自分の特技や好きなスポーツなど、文字でも書けることを伝え、表す内容について発表し合う。

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
1 1	くしゃくしゃがみから うまれたよ 紙を丸めたり、ねじったりして思いついたものを工夫する。	A (2) イ	4			○薄紙を丸めたり、ねじったりしてできた偶然の形を組み合わせ、想像を広げて作り方を工夫する。半面的、半立体的、立体的など表現のスタイルは子どもの表し方に任せ、思い思いに活動を楽しませたい。	小学校第1学年 「ゆめのまち3ちょうめ」	■色紙を手のひらでくしゃくしゃにする。その紙でどのようなことができるか自由に発言させ、その言葉をきっかけに自分が表したいものを作るにつなげていく。
1 2	うっしてあそぼう 形や色を楽しみながら、型押しやこすりだしなどを工夫して活動する。	A (1) イ	4			○型押しやこすりだし遊びを通して、自分らしい造形的な表現を追求したり、発見したりできるようにする。写し取る楽しさを十分に味わう経験をもとに版画などへ発展していきようにする。	小学校第2学年 「うっしてみつけて」	■導入で型押しやこすりだしなど、子どもたちに予想させながら教師がやって見せる。「写す」という条件での様々な表し方を通し楽しみながら自分なりの表現における発見をさせていく。
1	ともだちをつくろう すきな形に、目や手や足をつけて描く	A (2) ウ	2			○様々なものに目をつけることで無生物を生き物に見立てていく。それを自分マークとして表すことで、視点を少し変えることで表現や活動が広がることを体験させる。	小学校第2学年 「あつまれ、おなじかたちいっぱい！」	■思いついた自分のすきなものをいくつも描き、書いたものに目や手や足を描き加えると、生き物に生まれ変わることに気付き気に入ったものを自分のマーク(友達)にする。
2	ゆめのまちさんちょうめ はこの使い方を工夫して作る。	A (2) イ	4			○箱の中や、箱どうしをきちんと接着する技能が必要。家は自分の想像力を使ってどのような家にするのか試行錯誤しながら創造していくようにする。	小学校第2学年 「紙を立てた形から」	■大きさや形いろいろな種類、はさみで切ることのできる箱を集めさせる。自分が作りたい楽しい家を考え、自分や家族なども作り、暮らしの様子を想像しながら作れるようにする。
	えがおつうしん にっこり ニュース 生活の中で楽しかったことなどを描く	A (2) ウ	3			○誰かに話したくなるような嬉しかったこと、楽しかったこと、したことや見たことなどを思い浮かべテーマを見つけて自分らしい表し方で表すことができるようにする。	小学校2学年 「どうぶつさんとわたし」	■生活の中で、にっこりした瞬間を思い起こす。ちょっとした幸せなニュースを見つけ、絵に描いて特集しようと呼びかけ、書き方を工夫して楽しい気持ちを絵に表わす。
	おおきなかみでわっくわく 大きな紙を使って、楽しく活動する。	A (1) ア	2			○いつもは触れることのない大きな紙と出会うことで心を開き、その大きさや手触りから思いつく活動を投資手、材料に働きかけたり、友達と関わり合ったりする楽しさを味わえるようにする。	小学校第2学年 「ほわほわむくむく」 「きって、ひねって、つなげると」	■大きなままで紙を扱う機会はないかなかない。紙の感触を手のひらで確かめ、次第にその大きさを体全体で感じて聞けるようにする。ひねる・丸める・包むなど材料の良さをにつけたりできるようにする。
3	こころをこめてプレゼント 材料や作り方を工夫して、楽しみながら作る。	A (2) ア	5			○プレゼントする人を考えて、材料も作り方も自己選択し表現していく。今まで学んだことを総合的に活用できるようにする。	小学校第2学年 「ピコリンせいのカラフルパーティー」	■今までどんな作品を作ったか思い出し、使用した材料も想起させ、それらを使ってお世話になった6年生や祖父母、新入生などへのプレゼント作りにつなげる。
	合 計		6 8					

